



聞き手

紙田和代
編集委員



山形県副知事

後藤 靖子

さんに聞きました

GOTO Yasuko



海上保安庁で

北朝鮮工作船事件に遭遇

——後藤副知事は、これまでさまざまなお仕事で活躍されたとお聞きしています。どのような仕事をされてきたのか、簡単にお教えてください。

後藤——1980(昭和55)年に旧運輸省に入り、東京で鉄道や海運、総合政策などに携わり、1994(平成6)年に関西国際空港(株)に出向しました。テナントや空港施設の管理に携わり、テナント会の事務局なども担当していました。その後、九州運輸局の企画部長として、交通や観光を担当。観光というのは、温泉旅館や旅行会社、お土産屋だけでなく、受け入れ態勢や景観、地元の農産物をどう活かすかな

ど、地域全体の魅力が重要で、観光には地域をイキイキさせるコーディネート機能があるということ、九州の皆さんから教わりました。そのとき知り合えた方々は人生の師だと思っています。

——海上保安庁国際危機管理官というものも経験されています。とてもカッコいい響きがありますが、どのようなお仕事ですか？

後藤——私の役人人生のなかで、最も忘れられない期間でした。海上保安庁では、密航や麻薬密輸、海賊など、国際的な危機管理に関し、近隣の国々と連携を取り、対策をとる窓口を担当していました。

私がいた2001(平成13)年12月に、北朝鮮の工作船事件が起きまし

た。北朝鮮の工作船が日本近海に現れ、それを海上保安庁の巡視船が一昼夜追跡し、銃撃戦の末、工作船が自爆して沈みました。沈んだ場所が中国の排他的経済水域で、日本単独の判断では引き上げられず、中国と交渉して引き上げました。私のポストはその政府部内の連絡や引き上げ交渉の窓口でした。海上保安庁始まって以来といってもよい事案でしたが、海上保安官は冷静かつ毅然とした態度で事案に対処し、組織全体が、北朝鮮の工作船が何をしているのか、しようとしていたのか、その真相を解明するという強い意志のもと粘り強く取り組みました。正義感あふれる人たちで、そのときの仲

間の写真は今も飾っています。私にとっては得がたい経験でした。

■ 観光は地域資源の発掘につながる

——山形県の副知事として赴任するときは、どんなお気持ちでしたか。

後藤——実はこちらに来る前に、国際観光振興機構で、ニューヨーク事務所長として、ビジット・ジャパン・キャンペーンを担当していました。2年の予定だったのですが、1年で戻ってくることになりました。海外勤務をずっと希望していましたので、戻ってくることは正直悩みました。しかし、ニューヨークで、日本の特に地方には海外の人を魅了する力があると実感していたところでしたので、その発信のお手伝いできればと思ってお受けしました。また、自分の出会いの能力が試されていると感じることを面白いと思うようになっているのかもしれませんが、——「出会いの能力」とはいろんな人との出会いをつなげたり広げたり肥やしにしていける力のことですね。

——経済効果、と考えると、わが国では工業製品の輸出が思い浮かびますが、たとえば、外国人観光客をもっと誘致するのと、車の輸出などにもっと力を入れるのとでは、経済効果はどちらのほうが大きいのですか。

後藤——WTO(世界観光機関)の統計によれば、分野別輸出の世界総額は、オフィス通信機器に次いで、観光が2番目にあり、自動車より上です。たとえば、フランスでは人口と同じ観光客が毎年訪れていますし、観光客が来ることでフランスのワイ

ンやチーズが売れるなど、他の産業とも結びつきます。観光というと発展途上国の産業と思われがちですが、GDPや雇用に占める観光の割合は、ヨーロッパや北米のほうが、アジアの国より高いのです。

観光は、地域資源の発掘につながります。そして、都会にはない魅力が地域にはあり、そのことを知らせてくれるのが、外の人です。たとえば、山形県の上山市では「田舎時間」という農業体験を行っています。都会の若い人たちが上山の農家に行き、農作業を手伝う。そうすると、おじいちゃんの知恵を大変尊敬するわけです。それまで孫にも相手にされず、自分なんて大したことないと思っていたおじいちゃんが俄然元気になる。これなどは大変面白い事例だと思います。

■ 山形はきめ細かい魅力の宝庫

——最近では映画『スウィングガールズ』の舞台にもなりましたが、山形には、ほかにはない魅力がありますね。

後藤——地方の鉄道は常に廃線問題に直面しているのですが、フラワー長井線の沿線を舞台に映画ができるというのを聞いて、地元の人や観光協会の人、県の出先の人などが、映画会社に駆け込んだり、地域のプロモーションビデオをつくってもらったり、ロケ地巡りのツアーをつくったり、ガイドをしたりしています。映画の最後に音楽祭をやる場面があるのですが、あれも実際にやっってしまうということで、今年も2月に「東北学生音楽祭2006」が開催されました。さまざまな人が入り乱れてやっているというのが面白いところです。社会には

国、県、市町村、民間、NPOなど、さまざまな主体があって役割分担がありますが、立場を超えた「人間としての力」が問われる時代になっていると思います。

山形は山に囲まれ自然が美しいですし、羽黒山など信仰の対象になっている山もあります。自然や地域のなかには、そこで暮らす人びとの営みもあります。また北廻船などを介してさまざまな文化が交流した地域でもあり、お雛様巡りで飾られる雛人形などは歴史の薫り高いものです。それから、山形は木工、鋳物をはじめ、伝統に新たな要素を加えた山形カロッツェリアプロジェクトなど、カッコイイものもあり、まだまだきめ細かい魅力がたくさんあります。そういうものも知ってもらえたらと思っています。

■ 山形を変える力になりたい

——副知事のお仕事というのはあまり知られていないと思いますが、主にどのようなことをしているのですか。

後藤——副知事というと、政治家知事の黒子役というイメージが強かったと思います。最初に赴任して驚いたのが、儀式に出ることが多いことでした。私の尊敬する方には、「後藤さんに期待されていることは、「立派」な副知事になることではない。新しい風を吹き込むことだ」と言われました。それまでは違う視点で気づいたことをやっていければと思っています。また私の力はささやかですが、仕事はチームでやるものだというのを海上保安庁で学びましたので、仲間と一緒にここでもよい仕事をしていきたいと思っています。——ありがとうございました。